

姉妹都市提携25周年記念事業を振り返って

札幌からノボシビルスクへ

2015年(平成27年)6月、札幌市の市民訪問団22名が両市の姉妹都市提携25周年を祝うため、ノボシビルスク市を訪問しました。

ノボシビルスク滞在中は、5周年ごとに調印している姉妹都市関係の促進に関する宣言文の調印式をはじめ、ノボシビルスク市民にとって欠かせない創建を祝う「まちの日」のイベントなどに参加しました。

～ノボシビルスクでの主な行事～

【6月24日～6月29日 市民訪問団】

- 6月25日(木) ・トルストイ図書館市民交流会
・ノボシビルスク国立グリンカ音楽院視察
- 6月26日(金) ・ノボシビルスク国立経済・経営大学視察
・シベリア・北海道文化センター主催友好の夕べ
(シベリア・北海道文化センター)
- 6月27日(土) ・姉妹都市提携25周年記念式典・調印式(ノボシビルスク市役所)
・創建記念日「まちの日」記念コンサート視察(ノボシビルスク鉄道文化会館)
- 6月28日(日) ・創建記念日「まちの日」記念式典出席(ノボシビルスク市役所)
・日本文化祭(ノボシビルスク市立美術センター)

◆ ～姉妹都市提携25周年記念式典及び調印式～

6月27日(土)、ノボシビルスク市役所大ホールにおいて、札幌市からの訪問団を含め、約150名の両市関係者及びノボシビルスク市の他の姉妹都市関係者が見守る中、「姉妹都市間友好と協力の促進に関する宣言書」の調印が行われました。公務の都合によりノボシビルスクを訪問できなかった秋元札幌市長に代わり、訪問団長を務めていた公益財団法人札幌国際プラザ上田理事長が秋元市長の署名入りの宣言文をノボシビルスクへ届け、その宣言文にローコチ市長が署名をする形で調印が行われました。



宣言文を披露する札幌国際プラザ理事長



記念品の交換

◆ ～ノボシビルスク市創建を祝う「まちの日」イベント～

6月27日(土)、ノボシビルスクの創建を祝う「まちの日」記念コンサートが開かれました。また、28日(日)には、ノボシビルスク市役所でオープニング記念式典が行われ、札幌市を含むノボシビルスク市の姉妹都市関係者から祝辞が述べられました。



「まちの日」記念コンサート



記念式典で挨拶するノボシビルスク市長

◆ ～市民訪問団の交流～

ノボシビルスク滞在期間中には、トルストイ図書館やノボシビルスク国立経済・経営大学の訪問、日本文化祭への参加、札幌での公演経験もある指揮者、故アーノルド・カッツ氏の名前を冠したコンサートホールでのジャズコンサート鑑賞、ホームビジットなどの様々な市民交流プログラムを実施し、ノボシビルスク市民と今後の更なる友好を誓い合いました。



市民交流のひとつ

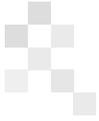


学生ボランティアから日本語で説明を受ける訪問団

ノボシビルスク市民にとって欠かせない大切な日「まちの日」 ДЕНЬ ГОРОДА НОВОСИБИРСКА

1987年に当時の政府機関からの指示により、ノボシビルスクの100周年記念の年である1993年7月3日～4日に創建を祝うイベントとして、1回目が開催されました。以来、毎年行われ、ノボシビルスク市民にも大好評のイベントとなっています。最近では、6月の最終日曜日にメインイベントが行われ、その前の一週間も様々な行事が開催されています。主なイベントとして子供向けのコンクール、若者向けのポップミュージックコンサート、クラシック音楽、バレエ、民族舞踊、民謡コンサートや展示会などが行なわれます。また、都心部の広範囲を歩行者天国にして、通りにはノボシビルスクの商品やお土産を紹介する店が並び、クラスヌイ大通りでは盛大なパレードが行われるなど、全市民のための楽しいプログラムが続き、夜11時ごろの花火で幕を閉じます。





ノボシビルスクから札幌へ

2015年(平成27年)10月、札幌で開催される姉妹都市提携25周年記念式典・祝賀会に出席するため、ノボシビルスク市のローコチ市長、アサンツェフ市議会議長をはじめとするノボシビルスク市訪問団5名が来札しました。

また、7月には、シベリア・北海道文化センターで日本語を学ぶノボシビルスク日本語青年訪問団7名が来札し、札幌市民との交流事業に参加しました。



～札幌での主な行事～

【10月13日～10月17日】

- 10月14日(水)** ・札幌市議会議長表敬訪問(札幌市役所)
・市民防災センター、札幌ドーム、札幌コンサートホール Kitara 等視察
- 10月15日(木)** ・姉妹都市提携25周年記念式典・祝賀会(札幌全日空ホテル)
・札幌市長表敬訪問(札幌市役所)
・交通局南車両基地、札幌芸術の森等視察
- 10月16日(金)** ・日本文化体験(札幌国際プラザ)
・札幌中央卸売市場、白い恋人パーク等視察

◆ ～姉妹都市提携25周年記念式典・祝賀会～

10月15日(木)、札幌全日空ホテルを会場に、約150名の関係者が見守る中、記念式典・祝賀会が行われました。姉妹都市提携から四半世紀という節目の年であったことから、記念式典では次の新しい四半世紀を担うであろう多くの若者に参加していただきました。具体的には、6月に調印された姉妹都市関係の促進に関する宣言文を、ノボシビルスクから留学中のロマン・キセリさんが日本語で、札幌大学でロシア語を専攻する大村渚さんがロシア語で披露しました。また、7月に「姉妹都市少年交流事業」の一環でノボシビルスク市を訪問した札幌の中学生8名が、両市の姉妹都市関係の発展に向けた提言を行い、そのメッセージを両市長へ託しました。両市長による記念品交換では、札幌在住で両市が姉妹都市提携の調印を行った1990年生まれの手道家・長谷川悠貴さんの書「心」が、秋元市長からローコチ市長へ渡されました。



学生による宣言文の披露



姉妹都市の発展に向けた提言の発表



記念品を渡す札幌市長

祝賀会は、ノボシビルスクに音楽留学の経験があるソプラノ歌手松井亜樹さん（札幌大谷短期大学部保育科講師）と、高橋健一郎さん（札幌大学ロシア語学科教授）のピアノ伴奏によるミニコンサートが行われ、参加者の皆さんは華麗な歌声と演奏に聞き入っていました。



祝賀会でのミニコンサート



ノボシビルスク市訪問団の紹介

◆ ～ノボシビルスク市訪問団の活動～

訪問団は、秋元市長や鈴木札幌市議会議長への表敬訪問を行ったほか、初めての札幌訪問となったローコチ市長を筆頭に、札幌ドームや札幌芸術の森など札幌市を代表する施設を中心に精力的に視察を行いました。



市議会議長への表敬訪問



交通局車両基地の視察

◆ ～ノボシビルスク日本語青年訪問団～

平成20年度から毎年夏に、シベリア・北海道文化センターで日本語を学ぶ青年達で構成される日本語青年訪問団が札幌へ派遣されています。札幌側では提携団体である公財）札幌国際プラザが受入れを担当し、各種交流事業や市民向け公開事業など様々なプログラムを実施しています。

平成27年度は、7月3日から14日までの日程で7名の訪問団が札幌を訪れました。滞在中は、市内の日本語学校やボランティア教室で日本語を勉強するとともに、小学校や大学を訪れました。また、札幌国際プラザで開催している「レットークロシア語」に「ノボシビルスクスペシャル」としてゲストで参加し、ノボシビルスクを日本語とロシア語で紹介するなど、市民との交流を深めました。



青年訪問団による札幌市長表敬訪問



市内大学生との語学交流

25周年に札幌を訪れて

ノボシビルスク市議会議長 ドミートリー・アサンツェフ

(ノボシビルスク市訪問団の一員として札幌を訪問)



2015年10月、ノボシビルスク市訪問団の一員として札幌を訪問いたしました。このたびのノボシビルスク市訪問団による札幌訪問は、両市の姉妹都市関係発展のためとても大事な事業であったと思っております。

札幌滞在中は様々な施設や名所を視察でき、さらには日本の伝統文化に触れ合うこともできました。札幌は現代的な大都会であり、その点でもノボシビルスクと似ていると思います。さらに、ノボシビルスクでは常態化している交通渋滞がないこと、発達した地下鉄などの有効な公共交通を見学することができ、大変参考になりました。歴史のある古い建物が現代的なビルと隣接し、札幌の独特な風景が生まれています。日本文化は本当に魅力的です。

札幌では温かく歓迎していただき、本物の日本のおもてなしを感じられました。今度は、我々ノボシビルスク市民が、札幌市の皆様の来訪を楽しみにしております。

ノボシビルスク訪問を振り返って

公財)札幌国際プラザ外国語ボランティア 樋口保夫

(市民訪問団としてノボシビルスクを訪問)

姉妹都市提携25周年の2015年6月に、市民訪問団の一員としてノボシビルスクを訪問しました。

商社勤務も含め40年余り、ソ連邦及びロシアとの貿易業務で、首都モスクワをはじめ多くの都市に行きましたが、ノボシビルスクを訪れる機会には恵まれませんでした。

シベリア中心都市で唯一の100万人都市は、「ロシア科学アカデミー・シベリア支部」「シベリア鉄道最大の駅舎を有する」等々、かねてより耳にしていたので、折があれば訪れてみたいと思っておりました。

ソ連崩壊後早や四半世紀が経ち、ソ連がウラル以東で最も力を入れていた「ノボシビルスク」という街が、どのような変化を遂げつつあるのか強い興味を持って参加した次第です。

中心部に残されている巨大なレーニン像に、この大きな都市は、社会主義は放棄したものの「レーニン」という偉大なレガシーを温存することが、社会の安定剤になっているのではないか?との印象を受けました。そして、ソ連時代には、教会の十字架は全てもぎ取られていたのが、今は塔の上に輝き信者が集うのを見ると、70年以上も宗教を否定されていた時が流れたにも関わらず、脈々とロシア正教が受け継がれていたことを実感しました。

札幌国際プラザで活躍している歴代の交流員の方々が、日本語をマスターされ「シベリア・北海道文化センター」で活発な交流事業をされていること、ホームビジットでの温かいおもてなし、北極海に注ぐ大河「オビ」の雄大な眺め、囲碁が両市の交流のきっかけであったことを知ったり、そしてその囲碁大会に参加できたのは、囲碁好きの小生にとって望外の喜びでした。

また交流の一環としてのロシア語でのスピーチ「札幌の年金生活者の暮らし」。

仕事以外でのこのような旅は、想像以上の心の収穫になりました。

この経験を糧に、両都市についてさらに学びつつ、市民交流に何らかのお手伝いが出来ればと感じております。

今回の交流訪問に御骨折りました皆様へ感謝申し上げますとともに、今後益々この交流の輪が広がりますようお願いしております。



年金生活についてロシア語で説明する樋口さん